

平成26年度 校務改善推進事業発表会 事例報告1

【テーマ】「生産性・効率性を高める組織改善とインフラの整備」 ～ 多忙感・負担感の軽減 ～

1 校務改善に向けたコンセプト

◇ 多忙感・負担感の軽減 → 「業務の総量を減らすには、限界がある。」

(1) 多忙感と負担感の要因

- ① 「なぜ、やる必要が・・・」 = 「目的」の不明瞭さ
- ② 「なぜ、急に・・・」 = 「見通し」のなさ
- ③ 「なぜ、私が・・・」 = 「分担」の不明確さ

(2) 多忙感と負担感の軽減に向けて

- ① 「目的」の明確化 → 「やりがい」のもてる業務
- ② 「見通し」の確立 → 先が見通せる「計画」
- ③ 「分担」の明確化 → 「担当」が明確な組織

(3) 具体的な取組

- ① 「分掌組織」の改善 → 明確な目的と計画、担当をもった組織の確立
- ② 「インフラ」の整備 → 効率的な運営と確実な業務遂行のための環境整備
- ③ 「学校評価」の充実 → 達成感と意欲を高める成果と課題の明確化

2 具体的な取組

(1) 「分掌組織」の改善

- ① 業務の整理・統合 ～ 三つのプロジェクトチーム ～
 - 学校経営方針を基盤に
 - 目的を明文化し
 - 従来組織を生かして
- ② 目標と取組の設定 ～ チームリーダーの思い ～
 - 学校経営とチーム及び個人の目標
 - プロジェクトチームの目標と取組
 - チーム間の調整
- ③ 年間行動計画の策定 ～ 見通しと意欲のもてる計画づくり ～
 - いつ・誰が・何をやればよいのか
 - 多忙な時期を作らない
 - リーダーを中心とした確実な進捗状況の管理

(2) 「インフラ」の整備

- ① 会議の運営
 - 目的と流れの明確化
 - 定例化
 - 効率化
- ② 担当者の配置
 - やる気と期待
 - チームリーダーとの協議
 - 人材育成

- ③ 文書起案の活用
 - 文書種別のラインの構築
 - コミュニケーションツール
 - 人材育成ツール

(3) 「学校評価」の充実

- ① 実施計画の改善
 - 評価対象
 - 日程
 - 報告
- ② 自己申告とのリンク
 - 学校経営と個人目標
 - OJT
 - 課題の発掘
- ③ 効率化
 - PTを核として
 - PTの自己評価と相互評価
 - 問題点から課題の想起

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 生産性
 - 課題解決型の組織へ：ルーチンワークとプロジェクトの区別
 - 職責に対する意識の高まり：課題の具申、人材育成 等
 - 学校経営課題の解決：不登校の減少、学校への評価の高まり、地域からの支援の活性化 等
- ② 効率性
 - 会議の時間の短縮
 - 会議の回数の削減
 - 退勤時刻と年次休暇の取得状況の変化
- ③ 人材育成
 - 若手教員：全教職員への周知・提案、運営方法の改善の具申、昇任への意欲 等
 - 主任教諭：学年経営の充実、確実な報告・連絡・相談、人材育成に対する意識 等
 - 主幹教諭：経営への参画、危機管理意識の高まり、主任教諭への助言、副校長の補佐 等

(2) 課題

- ① プロジェクトチームの業務内容の修正：業務量と担当の再点検
- ② 学校評価の実施方法の改善：教育活動全般からの問題点と課題の発掘
- ③ 経営方針の重点化：「梅島小 三か年プロジェクト」の作成

(3) 終わりに

- ① 組織改革の重要性を教えてくださいました校長に感謝
- ② 取組を継続していただいている前任校の校長や副校長に感謝
- ③ 取組を推進・充実している現任校の副校長やチームリーダー、教職員に感謝